

# 長崎大学医学部 ～熱帯病・新興感染症の克服を目指して～



長崎大学熱帯医学研究所・ウイルス学分野教授、WHO研究協力センター センター長

## 森田公一

1981年、長崎大学医学部卒業。長崎大学講師、WHO西太平洋地域事務局感染症対策課長を経て2001年より現職。専門は熱帯性ウイルス感染症。



長崎大学熱帯医学研究所・ウイルス学分野准教授  
WHO研究協力センター 副センター長

## MOI MENG LING

2010年、筑波大学大学院修了。国立感染研厚労技官を経て、2015年より現職。専門は蚊媒媒介性ウイルス感染症。日本ウイルス学会杉浦奨励賞受賞。

## 活動概要

長崎大学熱帯医学研究所ウイルス学分野は1993年11月23日付けのWHO西太平洋地域事務局(WPRO)局長San Tae Han博士(当時)のウイルス学分野主任、五十嵐章教授(現名誉教授)宛の書簡により、「熱帯性ウイルス病の資料と研究のためのWHO協力センター」に指定されました。その後、世界における数々の新興感染症の突発的流行を経て、2006年2月3日付けの尾身茂局長(当時)の書簡により「熱帯性及び新興感染症ウイルスのレファレンス及び研究のためのWHO協力センター」に改称され今日に至っています。

同センターの業務内容としては、東南アジアやアフリカのベトナム、フィジー、フィリピン、ケニア、コンゴなど熱帯病、新興感染症に苦しむ多数の開発途上国から研修生を受け入れ感染症対策人材の育成や、熱帯医学研究所の研究者をWHO

短期コンサルタント(専門家)としてWHOが主導する感染症対策や国際会議に専門家として派遣して、世界の感染症対策に貢献しています。

## 熱帯で蔓延する感染症の研究・専門家育成

21世紀の今日においてもなお、熱帯地域に存在する複雑な自然・社会環境は熱帯病をはじめとする錯綜した健康問題を引き起こし続けています。長崎大学熱帯医学研究所(写真①)は、1942年に設立され、本年で77周年をむかえました。本研究所では、熱帯病の中でも最も重要な領域を占める感染症を主とした疾患と、これに伴う健康に関する諸問題を克服することを目指し、関連機関と協力し、①熱帯病および国際保健における先導的研究、②研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献、③これらの分野に関わる研究者と専門家の育成に関する活動を実施しております。

熱帯医学研究所・ウイルス学分野(写真②)では、熱帯地域で蔓延するデングウイルス、ジカウイルス、日本脳炎ウイルス、ウェストナイルウイルス、などの蚊媒媒介性ウイルスに加えて、重症熱性血症減少症ウイルス(SFTS)やダニ媒介性脳炎などのダニ節足動物で媒介するウイルスなどの疫学、診断、予防、治療法に関する研究を行っており、ベトナム、フィリピン、ミャンマー、マレーシアなど

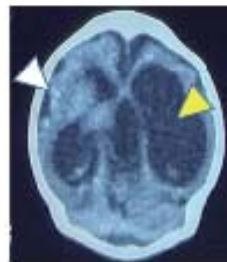
の東南アジア各国やアフリカケニアにおける調査研究や国際科学技術協力を日本医療研究開発機構(AMED)、科学技術振興機構(JST)及び国際協力機構(JICA)のプロジェクトなどを通じて実施しています。そして、1993年にWHO協力センターに指定されてからは、さらにアジア・アフリカ地域を中心として現地専門家への調査研究の活動支援、診断法の評価及び資料・技術提供、機関の検査能力を強化するための専門家の育成に関する活動を毎年実施しています。

## ジカ熱流行時における技術指導

記憶に新しい所ですが、ジカ熱が2015年には南米各地で大流行して、2016年には東南アジアへと感染が拡大しました。本WHO研究協力センターはベトナムでの流行拡大に対応するため、WHOの委嘱を受け、専門家をベトナムに派遣しました。この一連の対応では、ウイルス学分野のMOI MENG LING准教授は長崎大学ベトナム研究拠点(ハノイ)在住の長谷部太拠点長(教授)と共に、WHOのチームに合流して、2016年にベトナム国立衛生疫学研究所(NIHE)やWHO西太平洋地域事務局の専門家と協力し、対策に必要とされるジカ熱の実験室診断の技術指導をハノイで実施しました(写真③、④)。この調査では272名のジカ熱患者が確認されました。また、翌年の2017年にはホー



写真① 熱帯医学研究所前景



②研究室スタッフ、学生（2018年12月）③ハノイNIHEで開催されたジカ熱実験室診断講習会（2016年8月）④ハノイNIHEで開催させたジカ熱実験室診断講習会、実験室内の様子（2016年8月）⑤小頭症症例が発生したベトナムDak Lak州での疫学調査（2017年10月）⑥ベトナムで初めて確認されたジカウイルス感染による小頭症例（Lancet Inf. 2017）

チミン市 Pasteur Institute およびニャチャン Pasteur Institute のスタッフを対象としたジカ熱の WHO 主催の血清診断講習会を行うなど、ベトナム国の主要な衛生疫学研究所に対する診断技術のサポートを継続して実施し調査体制が強化されています（写真⑤）。これらの一連の活動において、アジア初めてのジカ熱小頭症症例が発見され、ジカ熱対策の重要性が再確認されています（写真⑥）。

### 感染症拡大を防ぐ 更なる取り組み

熱帯ウイルス感染症が亜熱帯地域への拡大がみられる中、当 WHO 研究協力

センターは感染拡大の防止への WHO の国際的な他の取組にも参加しています。2015 年からは WHO International Standard for Chikungunya Virus NAT test や WHO International PTP for the detection of arboviruses by PCR などの実験室診断強化プログラムにも参画し、診断技術の向上および世界の機関ラボトリーネットワークの強化を通して、感染症対策に資する活動を進めているところです。

### その他、熱帯医学研究所 から社会への情報発信活動

熱帯医学研究所では情報発信活動とし

て、熱帯医学ミュージアムを開設しています。熱帯病の概説パネル、顕微鏡病原体映像、標本、模型等を一般向けに展示・解説しています。また国内外の貴重な標本や資料の収集保存、情報提供を行っています。毎年、多くの市民、修学旅行生などが見学に訪れていますが、近年は海外からの旅行者の見学もあり多言語対応となっていますので是非ご訪問ください（<http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/nekken/facility/museum.html>）。さらに、社会人教育として熱帯医学研修課程（3ヶ月）を国内外から多くの参加者を集めて毎年開催しています。（<http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/3months>）